

野洲市資料提供

提 供 年 月 日	令和3年2月16日
担 当 部 課	健康福祉部障がい者自立支援課
担 当 者	小林・山本
連絡先電話番号	077-587-6087

第2次野洲市障がい者基本計画（案）、第6期野洲市障がい福祉計画（案）及び第2期野洲市障がい児福祉計画（案）に係るパブリックコメントの結果について

1. 意見募集期間

令和3年1月6日（水）～1月27日（水）

2. 閲覧場所

障がい者自立支援課、市役所本館情報公開コーナー、市民サービスセンター、健康福祉センター、発達支援センター、図書館、人権センター、市民交流センター、なかよし交流館、各コミュニティセンター

3. 意見提出者数

3名（13件）

4. 意見内容及び市の考え方

別紙のとおり

No.	ページ	項目	ご意見	市の考え方
1	83~88	基本目標5 障がい児支援の充実について	<p>ボランティアには限界があります。行政のペアレントメンター事業、各種保護者会、親の会への金銭支援だけではでない人的支援を切に望みます。</p> <p>「障がいなので人より劣るかもしれませんが、適切な支援によってその子どもなりに成長する」という視点と支援を特に望みます。</p> <p>適切な支援が保護者の頑張り、担当教師の努力があつてのみ配備されるという状況でなく、必要なところに必要とされる量の、正しいアセスメントに基づいた専門的支援が届く状況への改善を求めます。</p> <p>※提出されたご意見から主な部分を抜粋しています。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>今後、担当課と情報共有を行い、事業推進の中で検討していきます。</p> <p>なお、ご意見については、計画内容の修正を要する意見ではないと判断していますので、計画の修正は行いません。</p>
2	3	総称「be smileプラン」について	<p>「野洲市障がい者基本計画」「野洲市障がい福祉計画」「野洲市障がい児福祉計画」を一体的に策定するため計画の総称をつけることはよいと思いますが、「be smileプラン」という名称については、相応しいとは思いません。</p> <p>もちろん、結果として「笑顔になれる」のはわかりますが、名称として使われると、ただ笑顔を作ることが目的と捉えられかねません。</p> <p>「笑顔になれ」「笑えばよい」といわれている気がしてしまいます。</p> <p>地域で安心して暮らせることが「笑顔」だけで表現されるわけではありませんし、また、表情として笑顔を出さない、出せない方もおられるのではないのでしょうか。名称の変更を検討していただきたいと思えます。</p> <p>「思い」や「願い」などのあいまいで抽象的な名称ではなく、3つの計画の重なっている言葉だけを抜き出した「野洲市障がい計画」など、誰にでも何の計画かがわかる、わかりやすい計画の総称をお願いします。</p>	<p>「野洲市障がい者基本計画」「野洲市障がい福祉計画」「野洲市障がい児福祉計画」という計画名だけの表記よりも、誰もが親しみを持つことができるものがよいのではないかということから、策定委員会において審議を行いました。</p> <p>「笑顔」だけですべてが表現されるわけではありません。人の表情から汲み取れる「笑顔」のみではなく、心や気持ちを含め、人が「笑顔になれる」、そのような思いと計画への親しみを込めた総称であります。</p> <p>この総称の思いを踏襲しながら、事業の展開を推進してまいりますので、名称の変更は行いません。</p> <p>なお、サブタイトルとして、3つの個別計画名は記載しています。</p>

No.	ページ	項目	ご意見	市の考え方
3	10 13 16	「〇〇障がいのある人」のデータについて	<p>8ページからの「(2) 障がい者等の状況」で、「身体障がいのある人」p.10、「知的障がいのある人」p.13、「精神障がいのある人」p.16とありますが、データはそれぞれ、身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳保持者の人数を示しています。しかし、知的障がいの診断を受けていても手帳を取得しない人もいます。「知的障がいのある人」=療育手帳所持者の人数、などとしてしまうのは正確ではないので、表現を変更したほうがよいかと思えます。</p> <p>身体障害者手帳所持者p.10、療育手帳所持者p.13の「年齢別・等級別〇〇手帳所持者数」について合計人数が同グラフにあるので等級別の年齢割合が見にくくなっています。合計値は必要ないと思えます。</p> <p>身体障害者手帳所持者p.10、療育手帳所持者p.13は18歳未満・18歳以上での比較ですが、精神障害者保健福祉手帳所持者数p.16は5歳ごとの年齢区分であり、細かすぎるように思えます。精神障害者保健福祉手帳所持者だけ18歳未満・以上の区分より詳細にする理由はあるのでしょうか。同様の比較をするのであれば、18歳未満・以上の区分だけでよいのではないのでしょうか。</p> <p>さらに精神障害者保健福祉手帳所持者数だけ横軸が年齢となっていますが、前2つと同じように横軸は等級で表示すべきかと思えます。</p> <p>同様に「年齢別・等級別療育手帳所持者の構成比」「等級別精神障害者保健福祉手帳所持者の年代別構成比」など手帳の種類によって示されるグラフがバラバラで統一感がありません。同じような構成比を示すグラフであれば、横軸、構成比の内容などを揃えたほうがよいと思えます。</p>	<p>従前の計画からも同項目については、「知的障がいのある人」という表現としています。</p> <p>知的障がいの診断を受けていても療育手帳を取得していない人もおられます。そのため、実際の人数を正確に把握することができませんので、現況の人数を示すために療育手帳所持者数を掲載しています。「身体障がいのある人」「精神障がいのある人」も同様です。</p> <p>なお、ご意見の内容については、次期以降の計画等策定委員会の中で、委員に意見を伺い、検討していきます。</p> <p>ご意見のとおり、合計値を削除して、グラフの縦軸を調整することで、見やすく修正します。</p> <p>統計データの提供元によって年齢区分が異なっており、特に精神障害者保健福祉手帳所持者数については18歳未満・以上という年齢区分で表示することができません。</p> <p>また、横軸を等級で表すと等級ごとの人数の差が大きいうえに、各年齢区分の読み取りが困難になりますので、グラフの形式の変更は行いません。ただ、5歳単位の年齢区分は詳細すぎるとのご意見のとおり、構成比と同様に10歳単位の年齢区分にグラフを修正します。</p> <p>ご意見のとおり、「構成比」については、横軸を等級とし、年齢区分別の構成比になるようにグラフを修正し、統一感をもたせるとともに、説明文を追加修正します。</p> <p>『精神障がいのある人について令和元年度の年代別にみると、1級では60歳代及び70歳以上が8人と多く、2級では40歳代が91人、3級では20歳代が28人と最も多くなっています。』</p> <p>『年代別構成比をみると、20歳代以上で、年齢が高くなるにつれて1級の構成比が高くなる傾向がみられます。』</p>
4	44	障害者差別解消法の浸透と合理的配慮への取組について	<p>「■障害者差別解消法の浸透と合理的配慮への取組」について、障害者差別解消法の施行により、公立学校では合理的配慮は義務化され、障がいのある児童生徒にも十分教育が受けられるよう、一人一人の障がいの状況やニーズに応じていく必要があります。</p> <p>この施策の取組では、担当課（障がい者自立支援課、人権施策推進課）が「教育」の関係機関として市内公立学校の教員・支援員などにも研修などを実施するという点でよいのでしょうか。教育現場における合理的配慮への取組について、より一層の強化をお願いいたします。</p>	<p>市内公立学校の教員・支援員に対する研修を実施するのは学校教育課となりますので、担当課欄に「学校教育課」を追記します。</p> <p>なお、担当課の記載については、施策の展開において全般的に取り組む課名を記載しております。</p>

No.	ページ	項目	ご意見	市の考え方
5	87	個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用について	「■個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用」について、「個別の指導計画」の検討・活用については書かれていますが、「個別の教育支援計画」については触れられていません。「個別の指導計画」とは別に、「個別の教育支援計画」は将来に通じる計画を立てるもので、学校と福祉サービス事業所などの連携も必要となります。長期的な目線で活用されるべき計画です。形だけでなく、意味のある「個別の教育支援計画」の活用をお願いいたします。	ご意見ありがとうございます。 現時点で小学校と園（就学前）が合同で「個別の教育支援計画」を策定しております。また、療育に通所していた幼児については、発達支援センターにも協力してもらいます。 「個別の教育支援計画」は「個別の指導計画」とは異なり、学校だけで作成できるものではありません。福祉や医療、就労も見据えた関係機関と連携、協力して計画を作成する必要があります。 このため、まずは複数機関と学校が「個別の教育支援計画」を作成するためのしくみづくりを行っていく必要があると考えています。 なお、ご意見については、計画内容の修正を要する意見ではないと判断していますので、計画の修正は行いません。
6	88	学校現場における相互理解の推進について	「■学校現場における相互理解の推進」で地元校交流を推進しておりますが、現状では園所で一緒だったお友だちと小学校で遊ぶ、という低学年での交流が主な活動になっています。高学年になるにつれて、共同学習は難しい状況になりますが、受け入れ側の学級担任に活動内容を任せることで体制が整わず、なんのための交流なのか、目的なく活動していることも多いと聞きます。受け入れ側の小学校と特別支援学校とがより連携し、小学校側へのフォローなど、交流の目的・対応を丁寧に確認し、受け入れ体制をより整えていく必要があると思えます。	ご意見ありがとうございます。 地元校交流を有意義なものにしていくために多くの課題があることは認識しています。 ご意見のとおり、当該の小学校だけが考える問題ではありませんし、特別支援学校の協力も不可欠です。まずは対象となるお子さんのニーズと小学校側の状況を丁寧にすり合わせることや、特別支援学校と小学校がどのように協力していくのかを確認する必要があると考えます。 なお、ご意見については、計画内容の修正を要する意見ではないと判断していますので、計画の修正は行いません。
7	89	「休日・放課後の生活の充実」調査結果について	「■調査結果等から見える主な課題」で、『ヒアリングにおいても、「保護者が放課後の預け先に困っている」といった実情が述べられました。』とありますが、預け先に困っているというよりは、就労している保護者が増加しているため、放課後等の子どもの居場所によって、親の就労機会が奪われたり、就労の制限を受けたりすることがある、ということです。子どもの特性に応じた事業所を選ぶのではなく、空いている事業所を選択することしかできない現状が子どものためになるのか、より適切な支援を提供いただける環境を整えていただければと思います。	ご意見ありがとうございます。 ご指摘の現状は認識しており、多様でかつ複数の選択肢が可能となるように、運営法人に対して事業所の開設を働きかけるなど、適切な支援ができるよう検討していきます。 なお、ご意見については、計画内容の修正を要する意見ではないと判断していますので、計画の修正は行いません。
8	91	包括的な支援体制について	「計画の重点施策 重点取組Ⅰ」の中で、包括的な支援体制イメージ図を説明する文章に『①断らない相談支援、②社会参加支援（社会とのつながりや参加支援、③地域コミュニティにおける支えあう関係性の育成体制の確立を一体的・包括的に促進するため、相談員の人材育成やスキルアップを図るとともに相談コーディネーター等や相談員の確保をめざします。』とありますが、どこが③かわからない文章です。	ご意見のとおり、③のイメージ図との整合がとれませんので、枠内の13行目中盤以降の文章を以下のように修正します。 『「①断らない相談支援」、「②社会参加支援（社会とのつながりや参加支援）」、「③地域コミュニティにおけるケア・支えあう関係性の育成支援」、これらの体制の確立を一体的・包括的に促進し、相談員の人材育成やスキルアップを図るとともに相談コーディネーター等や相談員の確保をめざします。』

No.	ページ	項目	ご意見	市の考え方												
9	94	福祉施設入所者の地域生活への移行について	<p>「【第5期計画の目標と実績】」について、野洲市の成果目標の表がよくわかりません。少なくとも、目標の指数が①4%以上、②0%以上とあるので実績でも%数値は表記すべきと思います。</p> <p>「【第5期計画の目標と実績】」について、「施設入所者数が平成28年度末の0%以上削減」は助詞のミスかと思います。訂正をお願いします。また、この目標は「0%以上削減」なので0%でも達成になります。これは、目標を設定しないことと同意で、設定しないということでしょうか。</p> <p>「【第6期計画の成果目標】」については、下記の通り、表記の数式では目標値が導けません（$A - B = -2$など）。正確でわかりやすい説明をお願いします。</p>	<p>表記方法を以下のとおりに変更し、%表記を併記します。</p> <table border="0"> <tr> <td>令和2年度目標値</td> <td>1人（移行人数）</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0人（削減数）</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度実績値</td> <td>0人（移行人数）</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0人（削減数）</td> <td>0%</td> </tr> </table> <p>ご意見のとおり、「施設入所者数を平成28年度末の0%以上削減」に修正し、以下の内容の注釈を追加します。 『※本市をはじめ県内では多くの施設入所待機者がいる現状で、施設入所者の人数を減らすことが困難な状況と考え、目標値を0%と設定していました。』</p> <p>ご意見のとおり、正確な計算式ではないため、以下のとおり修正します。 「$A - B / A$」→「$(A - B) / A$」</p>	令和2年度目標値	1人（移行人数）	4%		0人（削減数）	0%	令和元年度実績値	0人（移行人数）	0%		0人（削減数）	0%
令和2年度目標値	1人（移行人数）	4%														
	0人（削減数）	0%														
令和元年度実績値	0人（移行人数）	0%														
	0人（削減数）	0%														
10	96	実績表記の仕方について	<p>「（4）福祉施設から一般就労への移行の促進【第5期計画の目標値と実績】」について、成果目標の数値と、実績値の表記の仕方が違うので達成したかどうかわかりにくいと思います。「1.5倍以上」の場合でしたら、実績値は「6倍」と記載するのが適切ではないでしょうか。</p>	<p>ご意見のとおり、成果目標の数値と実績値の表記方法が異なりますので、以下のように修正します。</p> <p>「600%」→「6倍」 「123%」→「2割増加」 「100%」→「10割」</p>												
11	102	日中活動系サービスの利用状況と見込量について	<p>「（2）日中活動系サービス【日中活動系サービスの利用状況と見込量】」の注釈（*）について、『国の指針により、生活介護及び就労継続支援B型については、第6期から継続入所者の数を除いた数値となっています。』とありますが、可能であれば、平成30年～令和2年度までの期間も、継続利用者の数を除いた数値も表記してはどうでしょうか。</p>	<p>平成30年～令和2年の利用状況は第5期障がい福祉計画の見込量に対する数値であり、データがありませんので、表記できません。 なお、103ページの居宅系サービス中の施設入所支援についても同様です。</p>												
12	58	ピアカウンセリング等の充実について	<p>発達障害向けのピアカウンセリングがあればいいと思います。現在どこかで活動されていますか？ ペアレントメンターの養成は野洲市であれば、いつどこでされていますか？情報があれば教えてほしい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 ご質問の件については、窓口にお越しくくださるか電話かメールで再度お問い合わせをお願いします。 なお、ご意見については、計画内容の修正を要する意見ではないと判断していますので、計画の修正は行いません。</p>												
13	78	雇用・就労の支援について	<p>作業所から一般就労を目指す1つの選択肢として週に数時間から始められるものがあればスモールステップを踏みやすく挑戦しやすいと思われる。市でも前向きにご検討されることを希望します。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 現行制度の就労系サービスの中で可能な取り組みであると考えております。 なお、ご意見については、計画内容の修正を要する意見ではないと判断していますので、計画の修正は行いません。</p>												